保護者各位　本校の教育活動に関するアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。
本年度の学校教育評価を下記の通り公表させていただきます。
今回の結果を、次年度の学校経営に生かしていきたいと思いますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

芦原小学校長　齊藤　利秋

26年度の集約

項目	具体的取組		評価者	目標指数(%)	結果(%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
確かな学力①	授業研究を積極的に行い、わかる授業・できる授業の充実に努める。	日々教材研究や授業研究を熱心に行っている。	教職員	90	86	「伝え合い　学び合う」の研究テーマの元、全教職員が教材研究や授業研究を行うことができ、教職員・児童共に目標指数に近い数値が得られた。支援が必要な子にきめ細かい指導を行うことができた。また、タイムリーに添削指導もできた。学年便り等に学習状況を紹介したので、保護者の理解も得られた。	きめ細かい指導の結果が学力向上につながるように、教材研究や授業研究を引き続き行う。	子どもへのきめ細かい支援、保護者への学習状況の周知等、学校の努力がうかがえる。日々の学習が大切だと思うので、今後もなお一層の努力をお願いしたい。
		授業が分かりやすくて楽しいと思う。	児　童	80	86			
		日々の学習内容を理解していると思う。	保護者	80	88			
確かな学力②	漢字マスターテストや計算スキルテストを実施する。	漢字の書き取りや計算力の定着を図っている。	教職員	90	100	マスターテストは数年間、継続して行っているので、教職員・児童共に漢字の書き取りや計算に力を入れている。また、保護者にも漢字や計算の力が身に付いていると実感してもらえた。	マスターテストは来年度も実施。再テストをして定着を図るが、個人の目標の得点を設定して4回で合格するように配慮する。また、マスターテスト表を集める負担を考えて、生活チェック表と抱き合わせにしてもよい。	テストの実施にも工夫が見られるが、更に予習復習の徹底や保護者との連携を密にして、児童が粘り強く取り組めるような対応をお願いしたい。また、漢字の書き取りや計算力はすべての教科の基本となるので、テストだけで判定を行うのではなく、学習全般を見て判定するようにしてほしい。
		家で漢字や計算の勉強に取り組んでいる。	児　童	80	83			
		漢字や計算の力が身についていると思う。	保護者	80	81			
	読書活動を推進する。	読書活動の習慣化を図っている。	教職員	90	93	「家庭読書に日」を設けたので、家庭で読書をするきっかけとなり、教職員は読書奨励を図ることができた。 児童は朝読書など学校では読書をよくしているが、家庭ではあまり読書をしていない。また、保護者の評価も低い結果となった。	「家庭読書の日」は年度途中からはじめたので、来年度は年度当初に知らせて、各家庭に啓発するとよい。その際、よく読書している家庭での読書時間設定などを紹介してもらう。また、教職員も家庭読書ができるように粘り強くお願いをする。	「家庭読書の日」の設定は、とても良いと思う。ゲーム等の普及が低年齢化している中、保護者の結果が42%というのも納得である。テレビ視聴やゲーム、SNS等の指導と併せて、保護者の理解を得ることが大切だと思う。根気強く保護者に啓発していってもらいたい。また、生活日課表をつけるなどして、保護者も含めて日頃の生活をふり返ることも効果があるのではないか。
		学校や家庭でよく本を読んでいる。	児　童	80	71			
		学校や家庭でよく本を読んでいると思う。	保護者	80	42			
健康で安全な態度①	生活スローガン「あいうえお」を実践できる児童の育成に努める。	清掃の指導・監督を徹底する。	教職員	90	100	昨年度の目標指数いずれも80%より、今年度は90、90、80%と上げて清掃指導に取り組んだ。清掃前の黙想、がんばり賞での意欲付けや縦割りで上級生が下級生に教えることなどで全校生が清掃を頑張っている。しかし、清掃の仕方が身に付いておらず集中できていない児童もいる。学校公開日に保護者にも清掃を参観してもらう機会を設けたが、参観者はほとんどいなかった。	月目標の意識付けと班長による清掃反省カード評価、生活チェック表での自己評価をもとに児童の清掃活動への意欲を継続させていく。清掃の仕方が身に付いていない児童には、清掃時はもちろん学級指導でも丁寧に指導していく。今後も、学校公開日に保護者にも清掃を参観してもらう機会を設けていく。	生活スローガン「あいうえお」は、大変良い取り組みだと思う。低学年からの継続的な指導をお願いしたい。 清掃が身についていない児童へ丁寧な指導を引き続き取り組んでいただき、全体の意欲が高まるようお願いしたい。
		協力して、時間いっぱい掃除をすることができる。	児　童	90	83			
		清掃活動に真面目に取り組んでいると思う。	保護者	80	88			
健康で安全な態度②	業間の体育的活動を充実するなど、運動の日常化を図り、体力の向上に努める。	業間の体育的活動や運動遊びの充実に努めている。	教職員	90	100	昨年度の結果、95、92、66%よりも更に向上した。マラソンがんばりカードやマラソン大会の目標決め、また、大会後の完走賞、上位入賞者、タイムアップ賞表彰などで意欲と達成感、体力への関心が高まっている。バスケットボールやドッジボール、一輪車、大縄跳び、雲梯、肋木などで友達と楽しく運動する姿が多く見られる。 保護者においても、マラソン参観者が年々増し、児童の頑張りを見ている。	マラソン大会は2学年で互いに応援し合いながら行っていることや、高学年の陸上記録会の様子を見て、下級生もそれを目標に業間マラソンに取り組んでいる。このような全校での取り組みや特に運動が苦手な児童への運動遊び奨励を継続していく。	体力向上は、生きる力に不可欠である。運動をする子どもとしない子どもの二極化が見られることやそれによって体力レベルにも差が生じている現状を考えると、マラソンに限らず運動をすることが好きな子を育てなくてはいけないのではないか。自立心を起こさせるためにもスポーツは大切だと思う。子ども達のがんばりを認め、褒めてスポーツに励む児童の育成に努めていただきたい。
		校内マラソン大会で記録がよくなるように、業間マラソンを熱心に取り組んでいる。	児　童	90	93			
		体力づくりに意欲的に取り組んでいる。	保護者	80	79			
規範意識①	集団で生活するための基本的なきまりやマナーを身につける指導実践に努める。	元気ある挨拶や大きな返事をする指導をしている。	教職員	90	100	児童、保護者ともポイントはアップしている。朝の挨拶運動を全学級で行う取り組みを行った成果が出ているようである。また、6年生が朝、帰りに職員室の扉を開け、挨拶を行っている姿を見て下級生にもよい影響があるようだ。朝、帰り以外の挨拶も元気よく行う児童が多いが、まだ元気のない声で挨拶する児童もいる。褒めることにより子どもの意欲を持続させていきたい。	登校班ごとに挨拶運動を行う。登校が遅い班については、昼休みの挨拶等を行う。近年、地域のつながりが弱くなってきているので、挨拶だけにとどまらず、地域のつながりを強化させていきたい。	いろいろと工夫しながら指導されている。今後も根気強く継続をお願いしたい。加えて、家庭、地域ぐるみで、大人が模範となるよう努力しなければならない。保護者や地域の関係団体との情報交換や連携協力等の話し合いの推進が必要である。ただ、不審者等の問題もあり難しい一面もある。
		進んで挨拶したり、大きな声で返事をしている。	児　童	80	90			
		基本的なマナーが身についていると思う。(先生や友だち、地域の人への挨拶)	保護者	80	92			
規範意識②	当たり前のことが、当たり前にできる児童の育成に努める。	学校で決められた約束事の指導に取り組んでいる	教職員	90	100	児童の意識は、向上していると考えられる。安全面からも廊下を走らないという指導の徹底を図る必要がある。	毎月の自己チェック表の中に、来年度の強化項目として「廊下を走らない」ことと、「気持ちのよい挨拶」の項目を毎月入れ、意識付けしていく。また、規範意識を高めるため、教職員の意識向上と粘り強い指導が必要である。毅然とした態度できまりを守らせる必要がある。	「当たり前のことが、当たり前にできるように」というのは、簡単なようで非常に難しい。基本的な物事の善悪が判断できるよう指導していただきたい。また、児童クラブでの子ども達の過ごし方や基本的なマナーについて気になることが多い。場所や場面が異なると、できないのでは本当に身についていることにはならないのではないか。子ども達の規範意識を高めるために、継続して指導をお願いしたい。
		学校で決められている約束事を守っている	児　童	80	89			

思いやりの心①	異なる意見や考え方を尊重し、個を大切にした指導の充実に努める。	話し合い活動や発表活動を実施している。	教職員	80	86	教職員・児童・保護者共に向上している。相手の思いを聴き取ることもできつつある。縦割り班の活動では高学年は低学年の世話をよくしており、低学年も素直に楽しめている。	児童には、「自分の思いを伝え、他の思いを受け止める」ことが思いやりに繋がることを知らせ、学習活動に取り入れていく。	他の項目に比べ、教職員の数値がやや低いようである。日頃の授業や学習の中で、意識的に場を設けていくことが大切だと思う。相手の話を聞くというのは家庭の中でもとても大切だと思う。また、他の思いを受けとめるというのはとても難しい。大人でも、相手を理解し、相手の意見をよく聞き、その上で自分の意見をまとめられるような人は少ない。このような経験を積むことは、いじめ防止にも繋がると思う。日々、指導の徹底をお願いしたい。
		様々な学習活動や生活の場面で、自分の思いを伝え、他の思いを受けとめることができる。	児　童	70	75			
		一人ひとりを大切にしたり、自他の命を大切にしたりする取組や指導を行っている。	保護者	70	88			
思いやりの心②	道徳の時間をはじめとし、体験学習や交流学習等を通して、思いやりや感謝の心を育てる。	道徳の時間をはじめ、体験学習や交流学習等を通して、思いやりや感謝の心を育てている。	教職員	80	100	集会での交流で自然に思いやりの心や感謝ができた。特に今年度は見守り隊の人もお招きして、感謝の気持ちを伝えることができたので、教職員・児童・保護者共に目標指数に達することができた。	来年度も体験を通して思いやりや感謝の気持ちを伝えるように計画する。「わたしたちの道徳」でもチェックする項目を学年で選び、積極的に活用する。他の資料も使って、思いやりや感謝の気持ちを育成していく。	思いやりの心を育てるには、縦割り班活動やいろいろな立場の人、地域の人などとの交流ができる体験が必要だと思われる。相手を思いやる心を育てるためマナー教育や道徳教育の充実に努めていただきたい。
		思いやりや感謝の心が育っている。	児　童	80	86			
		思いやりや感謝の心が育っている。	保護者	80	93			
	いじめの防止等の対策に取り組み、児童が安心して生活し、学ぶことができる環境づくりに努める。	いじめに対し、未然防止、早期対応に努めている。	教職員	80	100	毎月、教育相談のアンケートをしているので、児童理解の役に立った。「いじめきらい宣言」の効果も上がった。また、定期的に教育相談やいじめ対策委員会を開いたので、教職員は100%、児童も目標指数に近い数値であった。しかし、保護者に「いじめ防止基本方針」が理解されていないので、低い結果となった。	アンケート・教育相談・アンテナ会議・いじめ対策委員会を引き続き実施し、いじめの未然防止に努める。保護者に「いじめ防止基本方針」が理解されていないので、学校便り・学年便り・HP・広報誌などを利用して、知らせるとよい。 インターネットのよりよい使い方を伝えて、家庭でのルール作りの元となるとようにする。	いじめをテーマにした学校行事を参観したが、大変良かった。今後も続けてほしい。いじめに対しては、子ども同士の意見交換の時間を設け、自分とは異なる意見や考え聞き、受け入れことが大切である。相手の気持ちを汲み取れるような指導をお願いしたい。 保護者に対して、学校の取り組みを周知して協力を得ることが大切である。
		いじめのない学校や学級づくりに取り組んでいる。	児　童	80	79			
		いじめのない学校や学級づくりに取り組んでいると思う。	保護者	80	88			
		「いじめ防止基本方針」を理解している。	保護者	70	56			
2学期制の施行	授業時数の確保を心がけ、時間をかけた丁寧な指導を行う。	授業で基礎・基本の定着を図り、今まで以上に時間をかけるよう心がけている。	教職員	80	100	教職員、児童、保護者ともに目標指数を上回る結果となった。 特に、授業改善に関する保護者の評価が97%と高水準になったことは、日頃の継続した授業実践の成果であると言える。 児童の授業に対する評価も好結果となっているが、個に応じたきめ細やかな指導をいかに学業成績に結びつけていくかが今後の課題である。	各学年年間30時間程度増加する授業時数を、国語や算数などつまづきやすい教科に有効に活用するすることにより、児童一人一人に対応したきめ細やかな指導の充実に努めていく。	保護者の数値が素晴らしく良い。日頃の先生方の努力の成果だと思う。2学期制のメリットを活かし、個にあった指導を今後も継続していただきたい。
		先生は、学習内容を理解できるよう、時間をかけて教えてくれる。	児　童	80	92			
		一人ひとりを大切にした分かりやすい授業を行うなど、授業改善に取り組んでいると思うと思う。	保護者	80	97			
	児童生徒とふれあう時間を増やし、きめ細かな対応を心がける。	日常の対話により児童の実態を把握するように努め、きめ細かな対応を行っている。	教職員	80	100	三学期制の昨年度までと比べ、教職員がきめ細かな対応を行っているという様子が伺える。 気がかりな児童や配慮を要する児童への言葉かけや対応の機会・時間は増えているが、どの子どもに対しても信頼感や安心感を持たせるための支援の工夫が求められる。	次年度も引き続き日常的な会話や面談等の機会を設け、子どもとのコミュニケーションを密にしていくことが望まれる。 そのためにも、年度当初に実情に応じた教育相談計画を立案し、実施していく。	2学期制については、初年度なので児童・保護者ともまだその意義について理解されていないと思われる。特に児童の意識を変えていくことが大切で、すべての児童が実感できるような対応をこれからもお願いしたい。ふれあいとコミュニケーション能力の育成に努めていただきたい。
		先生と、学習や生活について話をする機会が増えた。	児　童	80	80			
	事前指導を丁寧に行い、長期休業を学期の途中として取り組むための効果的な手立てを講じる。	長期休業を「学期の途中のもの」とし、休業中の支援を意図的・計画的に行っている。	教職員	80	100	夏休み中に計画的に課題に取り組む児童、課題に取り組んだと感じる保護者の割合は、いずれも8割と目標指数同等の結果となった。 休業中の教師の支援が100%である結果と比べると若干のズレが生じており、この差を埋めていくことが今後の課題である。	夏休みは学期の途中であるという意識を高めるために、休業前の事前指導や保護者への啓発活動をより充実させていく。 また、一斉的な課題にとどまらず、補充学習も含め系統的な個別への対応策を検討していく必要がある。	長期休業中の課題の処理が計画的に進められるような支援が必要ではないか。長期休業中の生活面と学習面の目標を子ども自身が決め、その達成度を自己評価させるとよい。
		夏休みは、計画的に課題に取り組むことができた。	児　童	80	81			
		夏休みの期間中は計画的に課題に取り組んでいる。	保護者	80	79			
	学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童や保護者に対して丁寧な説明を行う。	児童や保護者に対して、学習や学校生活の様子を丁寧に伝え、共通理解を図っている。	教職員	80	86	成績のみならず、普段の生活や活動を様子、振り返り表の活用などにより、幅広い子どもの様子について保護者との懇談を進めることができた。 これにより、子どもの学習や生活の様子について詳しく知ることができた保護者の割合が96%と高い結果に結びついたものと思われる。	児童自身が学習の歩みや生活の様子を自ら振りかえり、自分への気づきや動機づけを高めるための個別支援、面談の在り方を再考していく。	定期的に発行される学校からの各種おたより等で普段の様子がうかがえる。
		先生との面談やふり返りにより、学習や生活の様子について考えることができた。	児　童	80	73			
		個人懇談や通知表により、子どもの学習や生活の様子について詳しく知ることができた。	保護者	80	96			
開かれた学校	教育活動を積極的に公開する。	計画的に学校を公開する。	教職員	80	95	計画的に学校公開日を設定し、実施することができた。それにより、学校公開に参加することができた保護者の割合が7割、学校での子どもの様子を知ることができた保護者の割合が8割と、近年で最も良い結果となった。 オープンスクールを昨年度に引き続き1日開催としたことにより、保護者が参加しやすい状況になったと思われる。	オープンスクールは、次年度も引き続き1日開催とする。 どちらかと言うと、マラソン大会や送る会など学校行事への参加が多いので、授業参観については、年に1回は授業を参観していただくよう保護者への呼びかけを強化していく。	オープンスクールは、祖父母や地域の方、学校を支援している方にも参加してもらえるようにしてはどうか。また、学校での子ども達の活動の様子を知らせる手段として、デジタル映像で配信してはどうか。 我々の子どもの頃と比較するのは無理があると思うが、時代が変わったといういうだけで、簡単にすませられない問題がたくさんある。昔、学校は安全で楽しいところという思いがある。しかし、最近は学校内外で考えられないくらい悲惨な事件が起きている。子どもの自殺や変質者の増加、不登校やいじめ、登下校の際の事故等、他にも学校が対処しなければならいことがある。項目の評価とはずれていると思うが、信頼される学校とは大変なことである。
		学校公開に多くの保護者が参加することができる。	保護者	60	71			
		学校での子どもの様子や活動ぶりを知ることができる。	保護者	70	79			
	おたよりやホームページ等を通して、適切に情報発信を行う。	おたよりやホームページ等を通して、適切に情報発信を行う。	教職員	80	100	定期的に学年・学級通信や保健だより等を発行するとともに、ホームページも適宜更新したことにより、教職員、保護者ともに目標指数を上回ることができた。 緊急メールもトラブルなく配信することができたが、緊急メールシステムへの加入が100%に達していない現状にあるのが課題である。	学校での取組や子どもたちの活動を様子を周知していただくために、今後も積極的に情報発信に努め、家庭や地域との連携を密にしていく。 緊急メールシステムへの加入については、ホームページにも追記して加入率を促進するとともに、機種変更時の手続き等についても、引き続き丁寧に説明していく。	結果を見る限りでは、十分効果が出ていると思う。今後も継続して情報発信をしてほしい。 緊急メールシステム未加入の理由ごとの対応を検討してはどうか。
		保護者が、知りたい情報を知り得ることができる。	保護者	80	90			